

スチール! & アイデア!
ヨドコウ

〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号
TEL. (06)6245-1111(大代表)
<http://www.yodoko.co.jp/>

株主メモ

| | |
|-----------|--|
| ■決算期 | 3月31日 |
| ■定時株主総会 | 6月開催 |
| ■基準日 | 定時株主総会・利益配当金 3月31日 |
| | 中間配当金 9月30日 |
| | その他必要あるときは、予め公告して定めます。 |
| ■1単元の株式の数 | 1,000株 |
| ■名義書換代理人 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 |
| ■同事務取扱場所 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 |
| | みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 |
| | みずほインベスターズ証券株式会社 |
| | 本店及び全国各支店(各プラネットブースを除く) |
| ■同取次所 | ※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のみずほ 信託銀行の電話及びインターネットでも24時間 承っております。 |
| | ・電話(通話料無料) 0120-288-324 |
| | ・インターネット http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/ |
| | |
| ■公告掲載新聞 | 大阪市において発行する朝日新聞 |
| ■決算公告 | 貸借対照表・損益計算書を当社のホームページ http://www.yodoko.co.jp/ に掲載しております。 |

単元未満株式買取請求及び買増請求

単元未満株式(1株から999株の株式)の買取請求及び買増請求は、上記の事務取扱場所・取次所において受付けております。なお、買増請求につきましては3月31日及び9月30日のそれぞれ12営業日前から当該日までの期間お取扱いを停止いたします。その他、会社が定める一定期間買増請求のお取扱いを停止する場合がございます。

配当金受領方法のお知らせ

当社配当金の受領方法は次のいずれかをご利用いただけます。

- (1) 郵便振替支払通知書による受領
- (2) 郵便貯金口座自動受取りによる受領
- (3) 銀行預金口座自動受取りによる受領

※郵便振替支払通知書でお受取りの株主さまには、より安全・確実な預貯金口座自動受取りによる受領方法のご利用をおすすめいたします。

※受領方法の変更をご希望の株主さまは、上記の事務取扱場所・取次所までお問い合わせください。

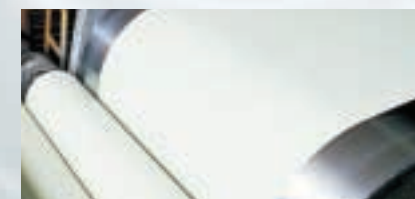
株主のみなさまへ



第107期 中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日

YODOGAWA STEEL WORKS



株式会社 淀川製鋼所
証券コード5451

独自性に支えられた、強い経営を目指します

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第107期中間期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成17年12月

代表取締役社長

鈴木鐸志



目まぐるしい変化を見せた市場環境

この上半期、わが国の経済は設備投資計画が15年ぶりに前期比2桁増に上方修正され、消費も堅調に推移。政府・日銀も8月上旬に景気の「踊り場」脱却をそろって表明しました。ただし、輸出や原油価格の動向など外部環境に依存する面が残されており、「踊り場」を脱却したかどうかについて、民間にはなお慎重論が残っています。

鉄鋼業界においては、高炉メーカーを中心に増産が続く、当上半期の粗鋼生産量は5,680万トン（前年同期比 0.7%増）。上半期としては過去3番目の水準に達しました。これは、主要製造業が好調で、設

備投資回復による非住宅着工や住宅投資も底堅く推移したことによるものです。とはいえ、後半には世界的な在庫や汎用品価格の調整がスタート。日本市場においても薄板3品（熱延鋼板、冷延鋼板、表面処理鋼板）の在庫が4年ぶりの高水準に膨らんだほか、輸出の減速懸念などもあって、鉄鋼業界の先行きの景況感は悪化しつつあります。

一方、当社の連結子法人等がある台湾では、昨年後半から輸出の伸びが鈍化。鉄鋼業界においても、需給改善を目的とした世界的な在庫削減の動きの中、中国鋼鉄が8月に国際価格への対応として国内販売価格の大幅引下げを実施しました。

4つの施策を柱に、さらなる成長に挑戦

このような状況のもとで、当社は目下、「成長への回帰元年」と位置づけた前年度に続く「成長への回帰2年目」の歴史を刻みつつあります。

目まぐるしく移り変わる市場環境の中で、たゆみなく成長を続けていくために、何よりも大切なのは「付加価値創生の強化」と「オンリーワン商品の開発とその体制の強化」です。当社はこれまでも、世界のベスト・カラーメーカーとして、価格ではなく価値で評価いただけるものづくりを行ってきました。今後はそうした付加価値創生力をさらに強化し、新たな付加価値を創造、新規事業に育て上げていくことが求められています。

従来の殻にこもることなく、しっかりと体制を整え、果敢な挑戦を行っていかねばなりません。また、価値にも価格同様、競争がつきものです。この競争を超越するために重要なのが、オンリーワン商品の開発とその体制の強化です。当社を当社たらしめてきた独自性をさらに深く追求し、多様な独自の商品を生み出していくために、技術研究体制の強化・充実に力を注いでいます。

さらに、環境問題への配慮や、企業の社会的責任が問われる現代にあっては、「自然環境への対応と企業の社会的責任遂行」も重要な経営課題です。エコ製品から環境にやさしいものづくりまで、真摯な取り組みでブランドへの信頼向上に努めています。

また、これらと並行して進めているのが、「利益還元重視の経営」の実践です。具体的には業績連動型の配当政策に移行し、その透明性を高めるため配当

性向を指標に組み入れました。これからも資本効率の向上と財務体質の強化を図ってまいります。

数値に現れた成果を、次へのステップに

こうした施策を着実に進め、経済環境へのスピーディな対応に取り組んだ結果、当上半期の当社単体業績は、売上高は576億64百万円（前年同期比20.1%増）、営業利益は64億06百万円（同65.0%増）、経常利益は93億71百万円（同60.1%増）、当中間純利益は、減損会計適用による特別損失計上もあって、37億42百万円（同18.6%増）に。連結業績としては、影響の大きい台湾SYSCO社で、この春先以降より販売価格の低迷と原材料価格の高止まりによる採算悪化が徐々に顕在化しつつあること、また、国内子法人等でも減損会計適用による特別損失の計上がありましたことから、当上半期の売上高は958億75百万円（前年同期比18.9%増）、営業利益は97億99百万円（同8.6%増）、経常利益は104億32百万円（同13.7%増）となりましたが、当中間純利益では20億30百万円（同23.6%減）となりました。

なお、当中間配当金は、当期の予想利益水準及び前期配当金実績を勘案しまして、1株当たり7円（前中間配当金は1株当たり5円）とし、12月1日よりお支払いすることといたします。

引き続き下半期も、株主の皆様への当社への信頼にしっかりお応えできるよう、当グループあげて変わらぬ努力を続けてまいります。今後とも、倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

事業の概況(連結)

【鋼板関連事業】

■ 鋼板部門

中国・東アジアで鉄鋼の一般市場価格が下落する中、一方、高級材の多い日本国内では原材料価格上昇分の販売価格への転嫁が進み、当社も平均で前年同期比24.2%の価格改定を行いました。新商品開発ではエコグリーン(クロムフリー)化を業界に先駆け促進。また、屋根・壁用の超耐久性意匠鋼板「ヨドハイブリッドアートGL」の生産・販売を始めました。今後もベストカラーメーカーとして環境対応を深め、市場ニーズに応えていきます。

■ 建材部門

採算重視の販売政策を推進、特に



ヨド物置「エスモ」(ESB-1605Y)

屋根材「ヨドルーフ」が好調で、売上増及び採算改善に大きく貢献しました。工事関連も、「日産Pプロジェクト」、「スタンレー電気秦野製作所」等の大型物件が完工しました。

エクステリア商品は新デザインの「ヨド物置エスモ」が販売棟数を伸ばし、従来品の「ヨド物置エルモ」、「ヨド蔵MD」も順調に推移。今後は、物置の一層のシェアアップ、施工店会との連携による大型商品の拡販に努めます。

■ SYSCO

台湾では、原油価格の高騰、世界経済の停滞を背景に輸出の伸びが鈍化。加えて国内景気の停滞から鋼材流通在庫が膨れ上がり市況は軟化傾向を強めました。同社でも販売価格が下落する一方、原材料は、メインの熱延鋼板をはじめ、亜鉛、アルミ、塗料などが軒並み上昇傾向。しかし、輸出市場で中国向けPCケーシング用亜鉛鉄板や米国向け鋼板を中心に販売数量の確保、販売価格の維持に努めた結果、売上高は数量・金額ともに増加しました。

【電炉関連事業】

■ ロール部門

世界的に厚板需給が逼迫する中、当社の厚板用ワークロールの販売数量は大幅増となり、また製紙業界向けロールも大型設備の納入で売上に貢献しました。

■ グレーチング部門

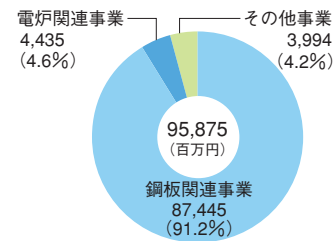
民間物件の受注に注力しましたが、当業界の供給過剰構造と海外製品による



グレーチング

価格攻勢により販売数量は減少。今後は越流対策商品の「ウォーターフォールズ」の設計PRを継続し、シェアアップと採算面の改善に努めます。

■ 当中間期セグメント別売上高構成比



中間単体財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目 | 当中間期 | 前 期 |
|---------------|----------------|----------------|
| | 平成17年9月30日現在 | 平成17年3月31日現在 |
| 【資産の部】 | | |
| 流動資産 | 79,908 | 81,019 |
| 現金及び預金 | 9,549 | 13,794 |
| 受取手形及び売掛金 | 38,490 | 37,411 |
| 有価証券 | 1,965 | 3,072 |
| 棚卸資産 | 20,669 | 15,764 |
| その他 | 9,235 | 10,980 |
| 貸倒引当金 | △3 | △3 |
| 固定資産 | 89,072 | 85,693 |
| 有形固定資産 | 35,051 | 37,307 |
| 建物及び構築物 | 12,803 | 13,044 |
| 機械装置及び運搬具 | 11,232 | 11,922 |
| 土地 | 9,194 | 11,353 |
| その他 | 1,819 | 987 |
| 無形固定資産 | 268 | 275 |
| 投資その他の資産 | 53,753 | 48,111 |
| 投資有価証券 | 37,553 | 30,198 |
| 子会社株式 | 15,119 | 18,355 |
| その他 | 1,100 | 1,127 |
| 投資損失引当金 | — | △1,546 |
| 貸倒引当金 | △20 | △22 |
| 資産合計 | 168,981 | 166,713 |

損益計算書

(単位：百万円)

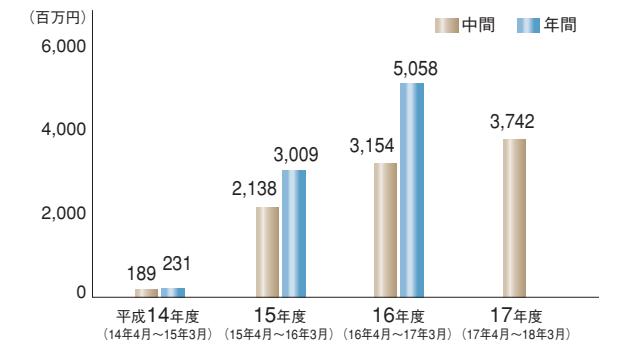
| 科 目 | 当中間期 | 前中間期 |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成17年4月1日から平成17年9月30日まで | 平成16年4月1日から平成16年9月30日まで |
| 営業収益 | 57,664 | 47,998 |
| 営業費用 | 51,257 | 44,114 |
| 営業利益 | 6,406 | 3,883 |
| 営業外収益 | 3,087 | 2,058 |
| 営業外費用 | 122 | 89 |
| 経常利益 | 9,371 | 5,853 |
| 特別利益 | 13 | 82 |
| 特別損失 | 3,912 | 667 |
| 税引前中間純利益 | 5,473 | 5,267 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,280 | 2,142 |
| 法人税等調整額 | △1,549 | △28 |
| 中間純利益 | 3,742 | 3,154 |
| 前期繰越利益 | 6,304 | 6,652 |
| 中間未処分利益 | 10,046 | 9,806 |

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

| 科 目 | 当中間期 | 前 期 |
|-----------------|----------------|----------------|
| | 平成17年9月30日現在 | 平成17年3月31日現在 |
| 【負債の部】 | | |
| 流動負債 | 23,823 | 27,993 |
| 支払手形及び買掛金 | 15,180 | 12,965 |
| 短期借入金 | — | 4,600 |
| その他 | 8,642 | 10,428 |
| 固定負債 | 10,319 | 9,179 |
| 退職給付引当金 | 5,126 | 5,144 |
| その他 | 5,192 | 4,034 |
| 負債合計 | 34,142 | 37,173 |
| 【資本の部】 | | |
| 資本金 | 23,220 | 23,220 |
| 資本剰余金 | 23,498 | 23,497 |
| 利益剰余金 | 80,023 | 77,912 |
| 株式等評価差額金 | 12,285 | 8,216 |
| 自己株式 | △4,190 | △3,307 |
| 資本合計 | 134,838 | 129,540 |
| 負債及び資本合計 | 168,981 | 166,713 |

■ 当期純利益



中間連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目 | 当中間期 | 前 期 |
|-----------------|----------------|----------------|
| | 平成17年9月30日現在 | 平成17年3月31日現在 |
| 【資産の部】 | | |
| 流動資産 | 99,130 | 98,580 |
| 現金及び預金 | 13,964 | 16,577 |
| 受取手形及び売掛金 | 44,524 | 45,016 |
| 有価証券 | 2,665 | 5,093 |
| 棚卸資産 | 31,351 | 23,740 |
| その他 | 6,890 | 8,500 |
| 貸倒引当金 | △266 | △347 |
| 固定資産 | 108,071 | 102,458 |
| 有形固定資産 | 64,136 | 65,910 |
| 建物及び構築物 | 19,361 | 19,506 |
| 機械装置及び運搬具 | 21,217 | 21,707 |
| 土地 | 20,851 | 23,037 |
| その他 | 2,707 | 1,659 |
| 無形固定資産 | 458 | 465 |
| 投資その他の資産 | 43,476 | 36,083 |
| 投資有価証券 | 41,435 | 34,054 |
| その他 | 2,242 | 2,256 |
| 貸倒引当金 | △202 | △227 |
| 資産合計 | 207,201 | 201,039 |

(単位：百万円)

| 科 目 | 当中間期 | 前 期 |
|------------------------|----------------|----------------|
| | 平成17年9月30日現在 | 平成17年3月31日現在 |
| 【負債の部】 | | |
| 流動負債 | 35,544 | 36,166 |
| 支払手形及び買掛金 | 19,071 | 16,988 |
| 短期借入金 | 4,721 | 4,600 |
| その他 | 11,752 | 14,578 |
| 固定負債 | 18,600 | 16,374 |
| 退職給付引当金 | 7,485 | 7,382 |
| 役員退職引当金 | 98 | 89 |
| その他 | 11,017 | 8,902 |
| 負債合計 | 54,145 | 52,541 |
| 【少数株主持分】 | 13,875 | 13,922 |
| 【資本の部】 | | |
| 資本金 | 23,220 | 23,220 |
| 資本剰余金 | 23,349 | 23,221 |
| 利益剰余金 | 85,851 | 86,299 |
| 土地再評価差額金 | 1,520 | 871 |
| その他有価証券評価差額金 | 12,466 | 8,335 |
| 為替換算調整勘定 | △1,654 | △2,686 |
| 自己株式 | △5,573 | △4,687 |
| 資本合計 | 139,181 | 134,575 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 207,201 | 201,039 |

連結損益計算書

(単位：百万円)

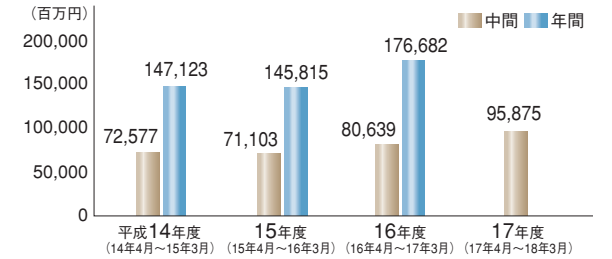
| 科 目 | 当中間期 | 前中間期 |
|--------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで |
| 営業収益 | 95,875 | 80,639 |
| 営業費用 | 86,075 | 71,618 |
| 営業利益 | 9,799 | 9,021 |
| 営業外収益 | 827 | 520 |
| 営業外費用 | 194 | 367 |
| 経常利益 | 10,432 | 9,173 |
| 特別利益 | 39 | 87 |
| 特別損失 | 3,451 | 2,864 |
| 税金等調整前中間純利益 | 7,020 | 6,396 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 4,392 | 3,337 |
| 法人税等調整額 | △591 | △636 |
| 少数株主利益 | 1,188 | 1,036 |
| 中間純利益 | 2,030 | 2,657 |

連結キャッシュ・フロー計算書

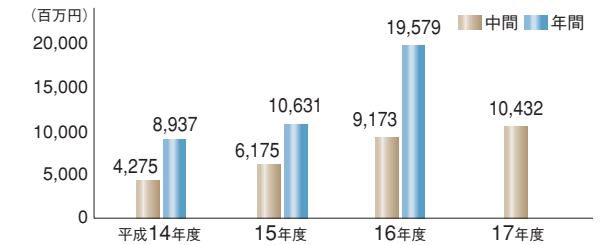
(単位：百万円)

| 科 目 | 当中間期 | 前中間期 |
|-------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,245 | 4,346 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △3,228 | △3,639 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △4,721 | △868 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 180 | 58 |
| 現金及び現金同等物の減少額 | △6,524 | △103 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 20,362 | 19,886 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 13,837 | 19,783 |

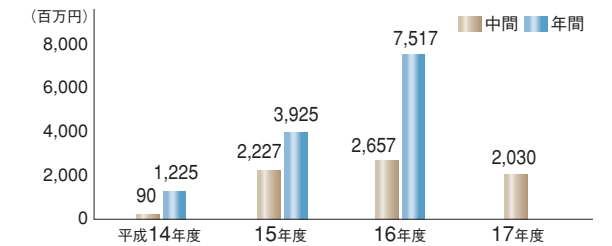
営業収益



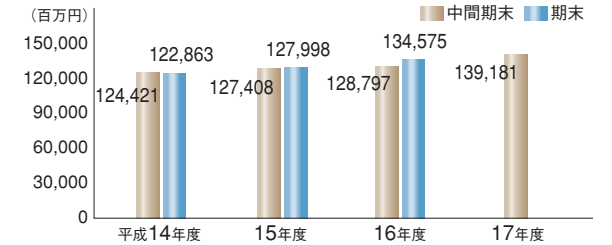
経常利益



当期純利益



純資産





素材一貫メーカーの強みを活かし、物置を中心にオンリーワン商品で業績の拡大を

建材部門は、「1.ルーフ・サイディング等の建材商品 2.物置・倉庫・ガレージ等のエクステリア商品 3.ダストピット等の景観商品」を3本柱に事業を展開。他に、自社建材商品を用いた施工を請け負う工事部も擁しており、単体ベースでの売上高構成比は26.0%を占めている。

ヨドコウ最大の強みは、競争力の高い素材、カラー鋼板を自社生産していることがあげられるが、より具体的な同部門の現状や、今後の展望はどうだろう。建材本部長 重広 紀義(取締役 専務執行役員)に話を聞いた。

鋼材価格改善などを追い風に、建材商品の売上が大きく拡大。

サビに強い、汚れがつかない、など、素材による差別化で競争力を発揮。

—まず当期の建材部門の概況は？

当上半期の単体ベースでの売上高は、前年同期比14.1%増の149億85百万円となりました。建材商品は工事部を含め前年同期比20.7%増、特に屋根材「ヨドルーフ」が自動車・IT関連を中心とした旺盛な設備投資により売上高は大幅増となりました。

エクステリア商品は景観商品を含め前年同期比7.6%増、個人消費に影響されるところの大きい一般消費財部門ですが、新型物置の新デザインが好評で売上高、棟数共に順調に推移しました。

今後は「ヨドルーフ」・「ヨド物置」の一層のシェアアップ、施工店会との連携で「ガレージ」・「倉庫」など大型商品の拡販に努めてまいります。

—ヨドコウ建材部門の競争力の源は？

自社オリジナルの多彩なカラー鋼板の性能や特性を活かして差別化商品を創り出せることです。たとえばヨド物置の最大のPRポイントである《サビに強い》という長所にしても、メッキカラーの製造工程に起因するものです。合金化メッキ鋼板に吹き付けで着色したのではこうした長所は生まれません。ほかに、雨で汚れが落ち、雨垂れの跡も残さない「スーパーバリアカラー」という鋼板を物置に用いるなど、自社生産の素材によって、他社にはできない高機能化を比較的低コストで実現し、競争力の源泉としています。



©赤塚不二夫/びえろ

当期発売の「オーダーウォール」など、独自の技術から独自の商品が。

—技術的な強みとしては？

ヨドコウはカラー鋼板の生産技術で他社の追随を許さず、現在大阪工場に1パスでプリントまで施せる最新のラインを有しています。この技術を建材に応用し、黒いストライプを印刷し、見た目に凹凸を感じさせる壁材をつくるなどを企画しています。

また当期は「オーダーウォール」という名で、エンボスをかけて高級感を追求した壁材を、エクステリア商品のオプションとして売り出しました。物置やガレージに貼ればこだわりの住まいや、高級車にマッチングでき、ハウスに貼れば断熱効果が居住性が高まります。販売は好調で、対象をヨドコウ商品に限定したりリニューアル材としての展開も考慮中です。

—営業面でも他に勝る部分はありますか？

当社は販売代理店及び施工代理店へのサポート体制として営業所を全国19拠点に展開し、地域密着のきめ細かい営業活動を行っています。たとえば当期は近畿地区で、販売店様におけるヨドコウ商品及び展示場の整理・整頓・清掃して回る『3Sキャラバン隊』というものを新設。気持ちの良い売場づくりのお手伝いを始めましたが、大変ご好評をいただいております。次は関東地区にも取り組みを広げていく計画です。

工事部は建材商品の将来に欠かせない高度な施工技術を守り育てています。

—さらにヨドコウの強みをあげるとすれば？

工事部を擁していることです。ルーフ、サイディング等

は施工技術によって大きく活かされる建材商品です。自らその施工技術の高度化を図りつつ、売上にも貢献していけるという点で、工事部を持っていることは確かな強みです。職人さんたちとより良い関係を築いて技能承継を支援し、ヨドコウの建材商品を末永く使い続けていただくことも、とても大切なことだと考えています。

工事部の実績は多彩で、大阪ドームや関空、埼玉アリーナなど枚挙に暇がありません。最近では中部国際空港ターミナル棟や京都迎賓館などを手掛けました。今後は、よりハイレベルで利益率の高い物件への集中を進めていきます。

環境配慮、CS強化などに真摯に取り組み、部門の拡大にも力を注ぎます。

—部門全体の今後の方向性は？

業界や分野を問わず「環境」がますます重要なキーワードとなってきています。当部門は既に屋上緑化や太陽光発電ユニットを一体化した屋根など様々な環境配慮型商品を打ち出していますが、こうした取り組みをより強化していかなければなりません。また、CS強化やコストダウンの推進も重要な課題で、この様な課題に取り組みつつ、他の商品を牽引する代表的商品である「ヨド物置」に最大の力点を置き、圧倒的なシェアの獲得を推進します。

建材部門は全社の経営戦略上で重要な位置を占めており、中長期的には現在の1.5倍の売上規模を目標に、営業・本部・工場が一体となった、力ある挑戦を続けていきます。

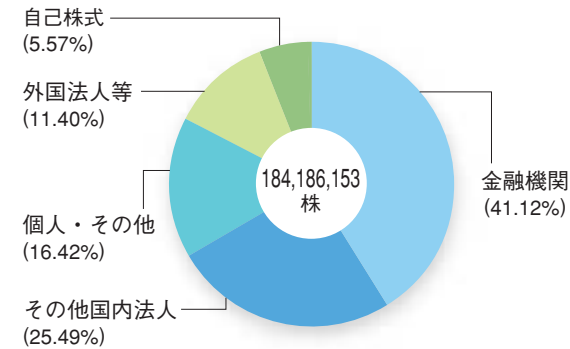
全社で唯一、一般消費財をご提供している当部門として、ますます株主の皆様にも親しまれる存在を目指してまいりますので、どうぞこれからはご期待ください。

株式の概要 [平成17年9月30日現在]

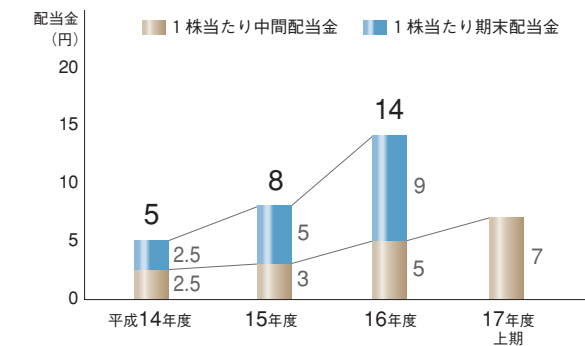
株式の状況

| | |
|-----------|--------------|
| 発行する株式の総数 | 753,814,067株 |
| 発行済株式の総数 | 184,186,153株 |
| 株主数 | 10,589名 |

所有者別株式分布状況



1株当たり配当金推移

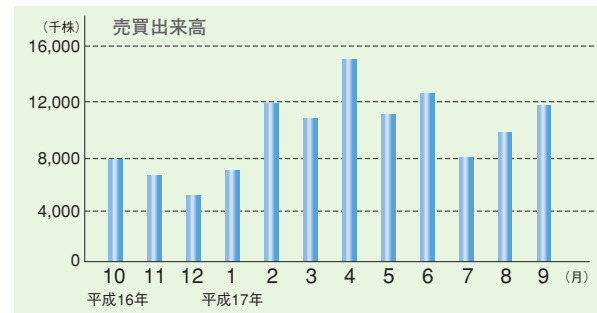
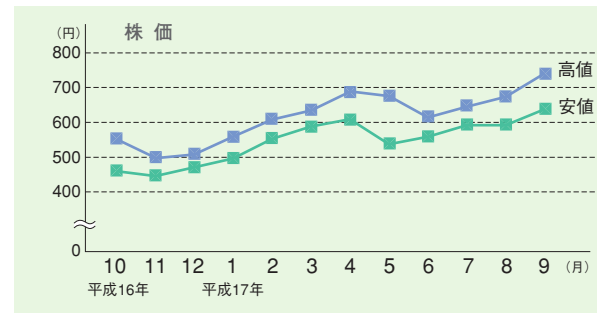


大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---------------------------|---------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 14,656 | 7.95 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 9,895 | 5.37 |
| みずほ信託銀行株式会社 | 5,470 | 2.96 |
| 株式会社りそな銀行 | 5,342 | 2.90 |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 5,310 | 2.88 |
| 日本生命保険相互会社 | 3,866 | 2.09 |
| ヨドコウ取引先持株会 | 2,941 | 1.59 |

(注)当社は、自己株式10,264千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移 (東京証券取引所)



会社の概要 [平成17年9月30日現在]

会社概要

| | |
|------|----------------------------|
| 社名 | 株式会社淀川製鋼所 |
| 英文社名 | Yodogawa Steel Works, Ltd. |
| 設立 | 昭和10年1月30日 |
| 資本金 | 23,220,815,228円 |
| 従業員数 | 1,407名 |

主要な事業内容

| | |
|--------|--|
| 鋼板関連事業 | 冷延鋼板、磨帯鋼、カラー鋼板 ガルバリウム鋼板他の表面処理鋼板 建築材料(屋根材、壁材等) 建設工事の設計及び施工 エクステリア商品 (物置、ガレージ、カーポート等) 景観商品 (シェルター、ゴミ収納庫、玄米冷蔵庫等) |
| 電炉関連事業 | 鉄鋼用ロール、製紙用ロール等 グレーチング |
| その他事業 | 機械プラント、ビル賃貸、ゴルフ場経営 駐車場経営、倉庫業、運送業 |

主要な事業所

| | |
|-----|---|
| 本社 | 〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号 06-6245-1111 |
| 支社 | 〒104-0041 東京都中央区新富一丁目3番7号 03-3551-1171 |
| 営業所 | 札幌、盛岡、仙台、新潟、長野、高崎 東京建材、横浜、静岡、北陸、名古屋 大阪建材、神戸、岡山、福山、広島 高松、高知、八幡、福岡、鹿児島 |
| 工場 | 大阪(大阪府)、呉(広島県)、市川(千葉県) 福井(福井県)、泉大津(大阪府) |

役員

| 取締役 | 執行役員 |
|--------------|-------|
| 代表取締役社長 | 鈴木 鐸志 |
| 代表取締役 専務執行役員 | 中島 聰 |
| 取締役 専務執行役員 | 森田 淳一 |
| 取締役 専務執行役員 | 重広 紀義 |
| 取締役 常務執行役員 | 吉田 栄作 |
| 取締役 常務執行役員 | 国保 善次 |
| 取締役 常務執行役員 | 河本 光弘 |
| 取締役 常務執行役員 | 寺田 剛尚 |
| 取締役 常務執行役員 | 大森 真 |
| 取締役 常務執行役員 | 辻 克己 |
| 取締役 常務執行役員 | 遠山 巽 |
| 取締役 常務執行役員 | 阪口 修司 |
| 取締役 常務執行役員 | 大森 豊実 |
| 取締役 常務執行役員 | 西村 修 |
| 取締役 常務執行役員 | 河本 隆明 |

監査役

| | |
|-------|--------|
| 常勤監査役 | 今村 靖雄 |
| 常勤監査役 | 天谷 薫 |
| * 監査役 | 川西 淳一郎 |
| * 監査役 | 今西 康訓 |

*印の各氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。